

宇宙観測グループ

人の移動など

昨年度（2010年度）は石井峻が博士の学位を取得して大学院博士後期課程を修了し、現在チリ大学で研究を行っています。また3名が博士前期課程を修了し、全員、後期課程に進学しました。学類の卒研究生は6名が卒業し、3名がそのまま本研究室に大学院生として進学してきました。

本年度は大学院博士前期課程に5名が入学してきました。後期課程への進学者は3名でこれまでで最多となります。学類の卒研究生は6名で、卒業論文に向けて一生懸命に研究に励んでいます。現在、大学院にセルビアからの留学生が1名いますが、さらにイギリス、アルジェリア、バングラデッシュなど外国から大学院への留学の打診がありました。特に宣伝はしていませんが、なぜか最近、外国から興味を持たれています。

研究等の近況

3月11日の東日本大震災ではつくば市内が断水し、大学内もある程度被害を受けましたが、研究室としては本棚の本が散乱する程度で大きな被害はありませんでした。ただし、自然系学系棟屋上にあって課題探究実習で使用している30cm光学望遠鏡が上下逆さま(!)になるなどかなり被害を受け、まだ修理をしているところです。

国土地理院32mアンテナを使わせてもらってK帯（20GHz帯）の観測を引き続き継続しています。特に、オリオン分子雲と銀河面サーベイの大規模観測を重点的に行っています。3月11日の東日本大震災では一応、大きな被害はなかったと地理院から報告を受けて観測を継続しましたが、最近、アンテナのゲイン低下などが判明し、地震との関係も疑っています。

南極30cm望遠鏡は本年7～10月にチリのアンデス山脈中の標高4400mの小さな村に置かせてもらってオリオン分子雲などの観測を行いました。石井、宮本などが長期滞在して活躍しました。2013年に再度チリで試験、観測を行った

あと、いよいよ11月に「しらせ」で昭和基地に運ぶ予定です。ドームふじ基地には2014年に持って行って試験をする予定です。現在さらに、1.2mの望遠鏡を開発中です。



研究室の仲間達

